

## (1) 学校の概要、目標及び計画

### ●学校の目標及び計画

本校は、『専門知識・技術、そして人間尊重を兼備し社会に貢献する人材の育成』を建学の精神として、1895年、福田馬太郎により「製図夜学館」として創立されて以来、一貫して工業社会に人材を輩出する技術者教育の場として運営されてきた。創設者による「知識・技術・精神を備えた、時代が求める技術者を養成する」という教育理念のもと、工業社会黎明期の製図教育から、高度成長期中堅技術者教育を経て、今日のIT社会や環境重視社会、あるいは技術社会の構造的な変革や入学者の多様化に至るまで、様々な社会的要請に応えるべく、学科編成や教育内容を変遷させつつ今日を迎えている。一方では変わらぬものとして、技術が持つ原理や原則の確実な習得と、それを生かす創意工夫を重視することを通じて、学生個々の資質を生かすとともに、さまざまな工業社会の局面に対応できる、創造性や柔軟性を備えた社会的な適応能力豊かな人材育成を目指している。このような教育理念に基づく教育活動をより有効かつ確実なものとするため、中長期的視座で包括的な学校運営方針を「中期計画(3ヶ年計画)」として策定し、具体的な活動計画として、事業計画を年度毎に策定している。

### ●学校の特色

専門学校としては比類ない歴史を持ち、業界で活躍する卒業生は極めて多い。それらを統括する校友会活動も活発であり、西日本全域を中心に各支部を持つ。また、専任教員は元より多様な講師陣と言った専門人材を擁しており、その豊富な専門性や人間性が本校教育の源泉である。同時に業界や地域との関係も深く、学生の視野の拡張に大きく影響を与えている。

### ●校長名：福田益和（ふくだますかず）

### ●所在地：大阪市北区天満1-8-24

### ●連絡先：代表電話（06）6352-0091

### ●学校の沿革

明治28年 創立（大阪市西区本田町）、初代校長に福田右馬太郎。わが国最初の製図学校「製図夜学館」を設立。大阪市における工業補修教育のさきがけとなる。

明治31年 大阪府より私立学校設立認可を取得。

明治40年 遠隔地にある篤学者のための技術教育を目指し通信教育を開始。

明治43年 初代校長死去により、福田萬亀雄校長就任。

大正7年 現在の北区天満1丁目9番27号（旧、川崎町）に移転。

昭和7年 校名を大阪製図学校と改称。

昭和20年 戦禍により校舎焼失。仮校舎にて授業を続ける。

昭和26年 機械工学科および建築学科を新設、高校卒修業年限2ヵ年。

機械科および建築科を新設、中卒修業年限3ヵ年。

校名を大阪製図専門学校と改称。

昭和29年 建築士法施行により卒業生の2級建築士受験資格について、大阪府知事の認定を取得。

昭和34年 労働省技能検定試験の受験資格について労働大臣指定を取得。

昭和39年 校名を大阪工業技術専門学校と改称。

- 昭和40年 学校法人となる。
- 昭和43年 II部に建築構造専科を新設。(63.3.31 廃止)
- 昭和45年 5階建校舎増築。
- 昭和46年 II部に環境設備科および女子住宅デザイン専科を新設、高校卒修業年限1ヵ年。  
II部女子住宅デザイン専科。(52.3.31 廃止)
- 昭和47年 I部に女子住宅デザイン専科を新設、高校卒修業年限1ヵ年。(63.3.31 廃止)  
II部に環境設備科を新設、高校卒修業年限2ヵ年。  
一級建築士受験資格につき建設省の認定を取得。
- 昭和48年 2号館4階建校舎新築。  
労働省「無料就職斡旋」(現紹介所)開設認可。
- 昭和49年 I部に環境設備科を新設、高校卒修業年限2ヵ年。
- 昭和50年 3号館5階建校舎新築。
- 昭和51年 校長に福田道章就任。  
専修学校(工業専門課程)認可。
- 昭和52年 2級管工事施工管理技士受験資格につき建設省の認定を取得。
- 昭和54年 4号館4階建校舎新築。
- 昭和57年 3号館5階建校舎増築。
- 昭和59年 2級建築施工管理技士受験資格につき建設省の認定を取得。
- 昭和62年 労働省高年令労働者等受講奨励金の教育訓練指定校として労働大臣指定(II部女子製図科、機械製図科)。
- 昭和63年 5号館5階建校舎増築。
- 平成 元年 I部にCAD製図科を新設、高校卒修業年限1ヵ年。
- 平成 2年 環境設備科(I・II部)を建築設備科に学科名を変更。  
1級建築施工管理技士(建築学科)・1級管工事施工管理技士(建築設備科)受験資格につき建設省の認定を取得。
- 平成 3年 1号館5階建校舎増築。  
二級建築士・木造建築士(建築設備科)受験資格につき府の認定を取得。
- 平成 4年 理事長に福田益和、校長に宮秋利厚就任。
- 平成 7年 卒業生に「専門士」の称号を与える(文部省告示による)。  
機械工学科(I・II部)を機械システム設計学科に学科名を変更。  
I部にメカトロニクス設計学科を新設。  
創立100周年を迎える。
- 平成 8年 新1号館6階建校舎新築。
- 平成 9年 I部に建築総合学科を新設、高校卒修業年限3ヵ年。  
II部に建築CAD科を新設、高校卒修業年限1ヵ年。
- 平成10年 6号館6階建校舎新築。  
I部に機械学科を新設、高校卒修業年限2ヵ年。  
I部に建築実務専科を新設、高校卒またはこれと同等以上の学力があると校長が

- 認められた者で、2級建築士の受験資格を有するもの。修業年限1ヵ年。
- 平成11年 I部に建設土木学科を新設、高校卒修業年限3ヵ年。  
「ISO14001（環境マネジメントシステム）」の認証を取得。
- 平成12年 校長に村本嘉雄就任。  
II部に管工事設備科および機械技術科を新設、高校卒業修業年限1年。  
姉妹校として大阪リハビリテーション専門学校を設置。
- 平成13年 I部にインテリアデザイン学科を新設、高校卒修業年限2ヵ年。
- 平成14年 I部に建築技能学科を新設、高校卒修業年限2ヵ年。  
I部CAD製図科をCADテクノロジー科に学科名を変更。
- 平成15年 I部に環境土木学科を新設。高校卒修業年限2ヵ年。  
I部機械学科をロボット・機械学科に学科名を変更。
- 平成16年 校長に田中隆就任。
- 平成18年 「プライバシーマーク使用許諾証」の認定を取得。
- 平成20年 校長に福田益和就任。  
新3号館5階建校舎新築。  
I部建築学科を建築ものづくり学科に学科名を変更。  
I部建築技能学科を大工技能ものづくり学科に学科名を変更。  
I部ロボット・機械学科をロボット・機械ものづくり学科に学科名を変更。  
I部建築実務専科を建築士専科に学科名を変更。
- 平成22年 I部建築ものづくり学科を建築学科に学科名を変更。  
I部大工技能ものづくり学科を大工技能学科に学科名を変更。  
I部ロボット・機械ものづくり学科をロボット学科に学科名を変更。  
I部インテリアデザイン学科をインテリア学科に学科名を変更。  
I部に建築設計学科を新設、高校卒修業年限2ヵ年。  
I部に建築実務学科を新設、高校卒修業年限2ヵ年。  
I部に建築設備学科を新設、高校卒修業年限2ヵ年。
- 平成23年 I部ロボット学科をロボット・機械学科に学科名を変更。  
I部インテリア学科をインテリアデザイン学科に学科名を変更。
- 平成26年 II部フレックス建築学科（単位制）を新設、高校卒修業年限2ヵ年。
- 平成27年 I部建築設備学科を設備環境デザイン学科に学科名を変更。  
創立120周年を迎える。
- 令和元年 『高等教育の修学支援新制度（教育費負担軽減）』対象校として認定を受ける。

## (2-①) 教育方針及び目的

### ●学校の教育方針

学則第1条に示された教育目的である「実務に適応しうる能力」を養成するための、教育方針を以下に示す。専門技術に関わる教育については、それぞれの技術がもつ基本原理を明らかにし、実務との関連を示しながら体系的な理解をさせるとともに、設定された達成水準を確実に身につけさせるための演習・実習を重視する。それと同時に技術を実務の場で発揮するための土台となる、社会性の獲得や職業観の涵養については、キャリアデザインの時間をはじめ、各科目レベルにおいても課題研究・グループ作業・プレゼンテーション・ディベート・振り返り等の要素を取り入れ、実務での業務遂行に必要な汎用的技能を会得させる。さらに、実務の現場である社会・企業・職業人との接触を重視し、企業研修や様々な社会活動等、学業と実務の繋がりが実感でき、社会に開かれた教育活動をさらに拡張させる。

### ●学習目的

#### 建築系学科について

以下に掲げる建築系学科（建築学科、建築設計学科、設備環境デザイン学科、インテリアデザイン学科、大工技能学科、建築学科Ⅱ部、フレックス建築学科）については、広く建築一般知識の習得を目指す共通学習領域がある。それは建築関連の業界において最低限理解しておくべき知識・技術の領域であり、本校ではその領域に含まれる科目群を基幹科目と称し、建築士法に定められる建築士受験資格認定の指定科目と一致している。基幹科目についてはその重要性から授業支援システムを導入しており、インターネットを介して毎回の講義の学習目的や配布教材・練習課題等を提示し、自学自習のためのサポートを行っている。建築系学科においては、この基幹科目をプラットフォームとし、学科毎に特化した専門科目を上部構造としたカリキュラム構成によって、社会に適応できるバランスの取れた技術者育成を図っている。

#### 【建築学科】

##### 1. 教育目的

建築学科は、建築のプロとして必要な知識・技術をバランスよく学びながら、段階を追って自身の専門性を定め、業界で活躍しその発展に貢献できる人材の育成を目的とする。その実現のために、学びを深める中で知識・技術だけでなく「真の仕事力」を養い、主体的に意思決定と行動ができるよう教育を行う。本学科は昭和50（1975）年頃より他学科に先駆けて、「真の仕事力」を育成する教育をはじめている。設計製図では、「設計教育を通じて人間教育」のコンセプトのもと、設計の知識・技術だけでなく、プレゼンテーション力やコミュニケーション力・創造力・マネジメント（チーム）力を養う教育を行ってきた。それを広い意味での設計力ととらえ、その大切さを理解し・身につけ・強化しつづける意識を育成してきた。その意識を「設計マインド」とし、現在の「技術者マインド」「真の仕事力」に継承されている。

##### 2. カリキュラム編成

建築学科では、卒業認定及び専門士の称号授与のために、基幹科目及び専門科目に加えて、必

要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、演習、実習に分ける。基幹科目は、建築計画・法規・構造・施工等、あらゆる建築のプロに必要な専門基礎知識の修得を目指す。専門科目は、実習・演習を通して設計や施工等の知識・技術の修得を目指す。専門科目は、必修科目・選択必修科目・選択科目から成り、とりわけ必修科目である設計製図と建築製図は、知識・技術だけでなく「技術者マインド」、「ことばの力」の強化とも関連し、「真の仕事力」を育成する本校の教育目的の軸となるものである。1年次後期からは、基幹科目、必修科目に加えて、選択必修科目から設計専攻と施工専攻の2専攻のいずれかを選択し、それぞれの専門の基礎を学ぶ。さらに2年次からは設計専攻を意匠コースと構造コースに、施工専攻を管理コースと技術コースに分かれ、さらに専門性を深める。2年次後期には各専攻領域に応じた卒業制作をおこない2年間の学びの集大成とする。

### 【設備環境デザイン学科】

#### 1. 教育目的

今日、建築の企画・計画・設計・施工・維持管理・廃棄・リサイクルにいたるフローにおいて設備環境デザインの力がすべての領域で要求されており、またその領域の幅も求められる力も大きくなっている。設備環境デザイン学科は、建築および設備環境技術者として必要な知識・技術をバランスよく学びながら、建築および設備環境のプロとして、業界で活躍しその発展に貢献できる人材の育成を目的とする。そうした人材育成を実現するために、学びを深める中で知識・技術だけでなく「真の仕事力」を養い、主体的に意思決定と行動ができるよう教育を行う。

#### 2. カリキュラム編成

設備環境デザイン学科では、卒業認定及び専門士の称号授与のために、基幹科目及び専門科目に加えて、必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、演習、実習に分ける。基幹科目は、建築計画・法規・構造・施工等、あらゆる建築のプロに必要な専門基礎知識の修得を目指す。専門科目は、実習・演習を通して設備環境技術（給排水・空調・電気等）及び建築・設備設計等の知識・技術の修得を目指す。専門科目は、必修科目・選択必修科目・選択科目から成り、設備関連必修科目では、設備環境デザインを学び、建築関連必修科目である設計製図と建築製図は、知識・技術だけでなく「技術者マインド」、「ことばの力」の強化とも関連し、「真の仕事力」を育成する本校の教育目的の軸となるものである。1年次後期からは、選択科目から給排水衛生設備、空気調和設備、電気設備、それぞれの専門の基礎を学ぶ。さらに2年次からはさらにそれぞれの専門性を深める。2年次後期には各専攻領域に応じた卒業制作をおこない2年間の学びの集大成とする。

### 【インテリアデザイン学科】

#### 1. 教育目的

今日、日本ではフローからストックの時代へと変わり、新築よりもリフォームやリノベーションの需要が高まっておりインテリアデザインもリフォームなどを含めてこれまで以上に幅広い知識と技術が要求されるようになっている。インテリアデザイン学科は、建築およびインテ

リアデザインのプロとして必要な知識・技術をバランスよく学びながら、段階を追って自身の専門性を定め、業界で活躍しその発展に貢献できる人材の育成を目的とする。その実現のために、学びを深める中で知識・技術だけでなく「真の仕事力」を養い、主体的に意思決定と行動ができるよう教育を行う。

## 2. カリキュラム編成

インテリアデザイン学科では、卒業認定及び専門士の称号授与のために、基幹科目及び専門科目に加えて、必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、演習、実習に分ける。基幹科目は、建築計画・法規・構造・施工等、あらゆる建築のプロに必要な専門基礎知識の修得を目指す。専門科目は、実習・演習を通してインテリアデザイン（インテリアコーディネート・インテリアプランニング・色彩計画等）及び建築設計等の知識・技術の修得を目指す。専門科目は、必修科目・選択科目から成り、とりわけ必修科目である設計製図、建築製図、デザイン基礎演習、スペースデザイン等は、知識・技術だけでなく「技術者マインド」、「ことばの力」の強化とも関連し、「真の仕事力」を育成する本校の教育目的の軸となるものである。専門科目（必修科目・選択科目）では1年次前期から2年次後期まで、インテリアデザインの知識・技術を段階をおってその専門性を深める。2年次後期には各自の専攻領域に応じた卒業制作をおこない2年間の学びの集大成とする。

## 【大工技能学科】

### 1. 教育目的

今日、建築生産の工業化が進み建材のほとんどが工場で加工され、現場ではシステムに則って組み立てる作業が主流となり、生産の合理化と引き換えにもの本質をとらえたものづくりができる現場技術者が少なくなっている。大工技能学科は、建築のプロとして必要な知識・技術をバランスよく学びながら、大工技能を身につけることを通して、ものづくりの姿勢を身につけ、業界で活躍しその発展に貢献できる人材の育成を目的とする。その実現のために、学びを深める中で知識・技術だけでなく「真の仕事力」を養い、主体的に意思決定と行動ができるよう教育を行う

### 2. カリキュラム編成

大工技能学科では、卒業認定及び専門士の称号授与のために、基幹科目及び専門科目に加えて、必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、演習、実習に分ける。基幹科目は、建築計画・法規・構造・施工等、あらゆる建築のプロに必要な専門基礎知識の修得を目指す。専門科目は、実習・演習を通して大工技能（道具の扱い方・木材加工技術・規矩術・木造軸組みの組立等）及び建築設計等の知識・技術の修得を目指す。専門科目は、必修科目・選択科目から成り、とりわけ必修科目である設計製図、建築製図、建築技能実習は、知識・技術だけでなく「技術者マインド」、「ことばの力」の強化とも関連し、「真の仕事力」を育成する本校の教育目的の軸となるものである。専門科目（必修科目・選択科目）では1年次前期から2年次後期まで、大工技能の知識・技術を段階をおってその専門性を深める。2年次後期には各自の専攻領域に応じた卒業制作をおこない2年間の学びの集大成とする。

## 【建築設計学科】

### 1. 教育目的

建築設計学科は、社会人や大学・短大・専門学校卒生、その他高校卒業後、様々な経験をしてきた方々（リカレント生）を対象とする学科であり、建築設計を中心に建築のプロとして必要な知識・技術をバランスよく学びながら、段階を追って自身の専門性を定め、業界で活躍しその発展に貢献できる人材の育成を目的とする。その実現のために、学びを深める中で知識・技術だけでなく「真の仕事力」を養い、主体的に意思決定と行動ができるよう教育を行う。

### 2. カリキュラム編成

建築設計学科では、卒業認定及び専門士の称号授与のために、基幹科目及び専門科目に加えて、必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、演習、実習に分ける。基幹科目は、建築計画・法規・構造・施工等、あらゆる建築のプロに必要な専門基礎知識の修得を目指す。専門科目は、実習・演習を通して意匠設計や構造設計等の知識・技術の修得を目指す。専門科目は、必修科目・選択必修科目・選択科目から成り、とりわけ必修科目である設計製図と建築製図は、知識・技術だけでなく「技術者マインド」、「ことばの力」の強化とも関連し、「真の仕事力」を育成する本校の教育目的の軸となるものである。1年次後期からは、基幹科目、必修科目に加えて、選択科目から意匠設計や構造設計、木造設計等の専門の基礎を学ぶ。さらに2年次前期からは選択必修科目で意匠設計と構造設計の専門に分かれ、さらに専門性を深める。2年次後期には各専攻領域に応じたパーソナル・デザイン・プログラム（卒業制作）をおこない2年間の学びの集大成とする。なおこのパーソナル・デザイン・プログラムは建築系学科における卒業制作に相当するが、作品づくりそのものに重点を置くのではなく、リカレント学生それぞれの資質やこれまでの経験を振り返り、自分の将来の仕事や理想とするライフスタイルへとつなげるために課題を設定し制作を行うことが目的となっている。

## 【ロボット・機械学科】

### 1. 教育目的

ロボット・機械学科は、ロボット・機械に関わる工業技術者として必要な知識・技術をバランスよく学びながら、段階を追って自身の専門性を定め、業界で活躍しその発展に貢献できる人材の育成を目的とする。本学科は、明治28（1895）年に機械製図の学校として創設された製図夜学館の本流であり、その誇りと精神を受け継ぎながら常に最新の工業技術教育を行ってきた。今日、分野横断的に技術融合は広範に進み、益々その流れは加速し、技術者に要求される専門領域も広がっている。そのような要求に応えるために、機械だけでなく電気・電子・情報など広い領域を学び、それを深める中で知識・技術だけでなく「真の仕事力」を養い、主体的に意思決定と行動ができる人材となるよう教育を行う。

### 2. カリキュラム編成

ロボット・機械学科では、卒業認定及び専門士の称号授与のために、必修科目、選択必修科目及び選択科目に加えて、必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、演習、実習に分ける。選択科目は、機械・電気・電子・プログラム等、あらゆる工業技術者に

必要な専門基礎知識の修得を目指す。必修科目は、実習・演習を通して機械設計や製作等の知識・技術の修得を目指す。選択必修科目は、1年次後期からは、必修科目、選択科目に加えて、選択必修科目からロボット機械専攻と電気機械専攻の2専攻のいずれかを選択し、それぞれの専門の基礎を学ぶ。さらに2年次からはロボットコース、機械技能コースに、電気コースの3コースに分かれ、さらに専門性を深める。2年次後期には各専攻領域に応じた卒業制作をおこない2年間の学びの集大成とする。必修科目と選択必修科目は、知識・技術の修得だけでなく「技術者マインド」、「ことばの力」の強化とも関連し、「真の仕事力」を育成する本校の教育目的の軸となるものである。

## 【建築士専科】

### 1. 教育目的

建築士専科は、二級建築士資格試験の受験資格のある者を対象に、国家資格である二級建築士の免許取得とともに、社会や建設業界で必要とされる知識や技術の修得をするよう教育を行う。また、資格試験の合格のみを目指すのではなく、学びを深める中で「真の仕事力」を養い、主体的に意思決定と行動ができるよう厳しく教育を行う。

### 2. カリキュラム編成

建築士専科では、二級建築士資格試験およびその他資格試験の合格、並びに社会や業界で必要とされる知識や技術の修得をするよう、必修科目及び選択科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、演習、実習に分ける。必修科目では、二級建築士資格試験の受験対策に重点をおく。各科目とも講義理解・演習・復習を徹底し、繰り返し模擬試験を実施する。その中で学生自身がそれぞれの問題・課題に自主的に取り組む姿勢をつくり、全員が二級建築士資格試験合格をめざせるよう指導する。選択科目では、二級建築士以外の資格試験（危険物取扱者乙種4類、2級建築施工管理技士（学科）、建築積算士補等）の合格をめざし、その他実務にかかわる教育を行い、資格取得と共に「真の仕事力」を強化して卒業をめざす。

## 【建築学科Ⅱ部】

### 1. 教育目的

夜間に建築を学ぶ人たちのための学科である建築学科Ⅱ部は、建築のプロとして必要な知識・技術をバランスよくかつ効率的に学び、業界で活躍しその発展に貢献できる人材の育成を目的とする。その実現のために、学びを深める中で知識・技術だけでなく「真の仕事力」を養い、主体的に意思決定と行動ができるよう教育を行う。

### 2. カリキュラム編成

建築学科では、卒業認定及び専門士の称号授与のために、基幹科目及び専門科目に加えて、必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、演習、実習に分ける。基幹科目は、建築計画・法規・構造・施工等、あらゆる建築のプロに必要な専門基礎知識の修得を目指す。専門科目は、実習・演習を通して計画・設計や構造の知識・技術の修得を目指す。専門科目は、必修科目・選択必修科目・選択科目から成り、とりわけ必修科目である設計製図と計画演習は、知識・技術だけでなく「技術者マインド」、「ことばの力」の強化とも関連し、「真



の仕事力」を育成する本校の教育目的の軸となるものである。1年次前期から2年次後期まで、段階をおって建築の知識・技術の専門性を深める。2年次後期には卒業制作等をおこない2年間の学びの集大成とする。

## 【フレックス建築学科】

### 1. 教育目的

フレックス建築学科Ⅱ部は、上記建築学科Ⅱ部のカリキュラムの中から、一定の単位取得を卒業条件としている単位制学科であり、建築のプロとして必要な知識・技術をバランスよくかつ効率的に学び、業界で活躍しその発展に貢献できる人材の育成を目的とする。その実現のために、学びを深める中で知識・技術だけでなく「真の仕事力」を養い、主体的に意思決定と行動ができるよう教育を行う。

建築士指定科目の単位取得を必須とし、建築士受験資格を取得することを目的としています。したがってカリキュラム内容の多くが建築学科Ⅱ部と共通しており、設計製図を基軸として建築計画分野、建築法規分野、建築構造分野、建築施工分野の各専門科目について基礎の理解から実務への応用を主眼としています。

### 2. カリキュラム編成

フレックス建築学科Ⅱ部では、卒業認定のために、基幹科目及び専門科目に加えて、必要とする科目を体系的に編成し、科目に応じて授業形態を講義、演習、実習に分ける。基幹科目は、建築計画・法規・構造・施工等、あらゆる建築のプロに必要な専門基礎知識の修得を目指す。専門科目は、実習・演習を通して計画・設計や構造の知識・技術の修得を目指す。専門科目は、必修科目・選択必修科目・選択科目から成り、とりわけ必修科目である設計製図と選択自由科目である計画演習は、知識・技術だけでなく「技術者マインド」、「ことばの力」の強化とも関連し、「真の仕事力」を育成する本校の教育目的の軸となるものである。2年から4年の間に、各自のペースで科目履修し、段階をおって建築の知識・技術の専門性を深め卒業をめざす。

## (2-②) 各学科の教育

### ●入学者選抜の方針

大阪府専修学校各種学校連合会から出されているAO入試の運用基準を始めとし、近畿高等学校進路指導連絡協議会からの要望を取り入れた内容（入学者選抜及び出願書類等について）を以って、入学者の選抜を行う。また、社会人や外国人留学生に関しても柔軟かつ積極的な受入れ体制を取っている。

### ●学生募集要項（下記、リンク先アドレス）

- ・入試方法、入試日程、学費等

<http://www.oct.ac.jp/requirements/>

### ●総定員・入学者数・在 student 数（基準日：令和元年5月1日、学校基礎資料等より）

【建築学科	（修業年限2年）	総定員160名・入学者数128名・在 student 数226名
【設備環境デザイン学科	（修業年限2年）	総定員50名・入学者数14名・在 student 数26名
【インテリアデザイン学科	（修業年限2年）	総定員80名・入学者数36名・在 student 数62名
【大工技能学科	（修業年限2年）	総定員80名・入学者数42名・在 student 数76名
【建築設計学科	（修業年限2年）	総定員80名・入学者数22名・在 student 数41名
【ロボット・機械学科	（修業年限2年）	総定員80名・入学者数46名・在 student 数87名
【建築士専科	（修業年限1年）	総定員50名・入学者数46名・在 student 数46名
【建築学科Ⅱ部	（修業年限2年）	総定員160名・入学者数42名・在 student 数91名
【フレックス建築学科	（修業年限2年）	総定員80名・入学者数4名・在 student 数11名

### ●カリキュラム、及び進級・卒業の要件（カリキュラム別表参照）

### ●単位の算定・履修方法、及び試験等

#### ・単位の算定

1. 講義・演習については、教室内における1時間の講義等に対して、教室外における2時間の準備のための学習を必要とするものとし、15～30時間の講義・演習をもって1単位とする。
2. 実験・実習及び製図の授業については、学習はすべて実験室・教室等で行われるものとし30～45時間の実験又は実習をもって1単位とする。
3. 1年間継続する科目は、前期、後期試験を含めた学年末の成績審査に合格した上で所定の単位を与える。ただし半分の単位は与えない。
4. 半期（前期または後期）のみの科目は、試験を含めた学期末の成績審査に合格した上で所定の単位を与える。

#### ・履修の方法

1. 履修は各学科とも基本的に自動登録となっているため、履修申請をする必要はない（建築学科及び建築設計学科の選択必修は除く）。  
それぞれの学科で必修科目、選択科目等、科目区分が決められているが、基本的に全科目を履修し単位を修得することが望ましい。
2. 不合格となった科目を再履修する時も自動登録となるため、履修申請をする必要はない。

3. 既に単位を修得した科目の成績評価を変更することはできない。

#### ・試験

1. 試験は、定期試験および再試験とする。
2. 定期試験は、学期毎に定期に行う試験をいう。
  - (1) 時間割 前期、後期とも試験開始の約一週間前に掲示する。
  - (2) 時間 定期試験の時間は、平常の授業時間と異なっているので注意する事。  
※なお科目により時間を延長することもある。
3. 再試験は、病気、忌引、災害、就職試験、交通機関の延着、によって受験できなかった者に対して行う試験をいう。
4. 再試験受験希望者は所定の定期試験欠席届を指定の期日までに診断書又は正当な証明書を添えて事務室に提出して許可を得なければならない。申込みをした者に限り受験を認める。
5. 建築士専科は定期試験を行わない。ただし、試験の必要があれば、随時その授業時間で実施する。

#### ・卒業試験

1. 卒業試験は卒業制作とする。
2. 卒業制作の課題は履修した過程の範囲内で選び、所属学科の承認を得たものでなければならない。

#### ・単位の認定

授業科目を履修し(原則として出席率が80%以上を履修と見なす)、その審査に合格したのものには、所定の単位を与える。

#### ・成績の評価(※GPA 評価換算：秀 4P、優 3P、良 2P、可 1P、不可 0P で算出する)

成績の評価は秀・優・良・可・不可の5段階をもって表し、秀(100~90点)・優(89~80点)・良(79~70点)・可(69~60点)を合格、不可(59点以下)を不合格とする。  
なお、特別科目については、合格又は認定とする。

#### ・単位修得の確認

単位修得および成績の確認は成績通知書による。

成績発表後一週間以内に疑義のある者は各科目担当者又は、事務室へ問い合わせること。

I部の学生の成績通知書は年2回(前、後期試験の成績発表後)保護者宛てに郵送する。

#### ・卒業証書

所定の修業年限に達し、卒業に必要な単位数を修得し、かつ卒業試験に合格した者には卒業証書を授与する。但し、学費未納の場合は、卒業証書を発行しないことがある。

又、修業年限2年の学科卒業者で文部科学大臣告示日以降に当該認定学科を卒業した者は同大臣告示により専門士(工業専門課程)と称することができる。

尚、フレックス建築学科(単位制)については、本校所定の課程を修了し所定の試験に合格した者には別様式の卒業証書を授与する。(※専門士と称することは出来ない)

■ 建築学科

1年次

	コース	科目名	週時間数		単位数		
			前期	後期			
必修科目		設計製図Ⅰ	4	4	4		
		建築製図Ⅰ	4	4	4		
		CAD設計製図Ⅰ		4	2		
	(小計)			8	12	10	
	設計専攻		設計特論Ⅰa		4	4	
			設計特論Ⅰb		4	4	
	施工専攻		施工特論Ⅰa		4	4	
			施工特論Ⅰb		4	4	
(小計)				8	8		
選択科目		建築概論(造形演習)	2		2		
		構造力学演習	2		2		
		計画演習Ⅰ	2		2		
		計画演習Ⅱ		2	2		
		(小計)			6	2	8
基幹科目		建築計画Ⅰ	2		2	※	
		建築計画Ⅱ		2	2	※	
		建築史Ⅰ	2		2	※	
		建築史Ⅱ		2	2	★	
		建築法規Ⅰ	2		2	★	
		建築法規Ⅱ		2	2	★	
		建築一般構造Ⅰ	2		2	★	
		建築一般構造Ⅱ		2	2	★	
		構造力学Ⅰ	2		2	★	
		構造力学Ⅱ		2	2	★	
		情報処理演習	2		2	☆	
建築施工法Ⅰ		2	2	☆			
(小計)			12	12	24		
キャリアデザインⅠ			2	2	2		
企業研修					(2)		
特別講座					(4)		
1年次合計			28	36	52		

\*一部変更することがある。

進級条件
1年次必修科目10単位、 1年次基幹科目★※印欄の科目をいずれか必須とし、 その他の科目含め
<b>総合計38単位以上</b>

\*一部変更することがある。

2年次

	コース	科目名	週時間数		単位数	
			前期	後期		
必修科目		設計製図Ⅱ	4	4	4	
		建築製図Ⅱ	4	4	4	
		CAD設計製図Ⅱ	4		2	
		卒業制作		4	2	
		(小計)			12	12
選択必修科目	意匠	意匠特論Ⅰa	4		4	
		意匠特論Ⅰb	4		4	
		意匠特論Ⅰc	4		4	
		意匠特論Ⅱa		4	4	
		意匠特論Ⅱb		4	4	
	構造	構造特論Ⅰa	4		4	
		構造特論Ⅰb	4		4	
		構造特論Ⅰc	4		4	
		構造特論Ⅱa		4	4	
		構造特論Ⅱb		4	4	
	管理	管理特論Ⅰa	4		4	
		管理特論Ⅰb	4		4	
		管理特論Ⅰc	4		4	
		管理特論Ⅱa		4	4	
		管理特論Ⅱb		4	4	
	技術	技術特論Ⅰa	4		4	
		技術特論Ⅰb	4		4	
		技術特論Ⅰc	4		4	
技術特論Ⅱa			4	4		
技術特論Ⅱb			4	4		
(小計)			12	8	20	
選択科目		CAD設計製図Ⅲ		4	2	
		建築計画Ⅲ		2	2	
(小計)			0	6	4	
基幹科目		建築環境工学	2		2	※
		建築設備		2	2	※
		建築材料Ⅰ	2		2	★
		建築材料Ⅱ		2	2	★
		建築施工法Ⅱ	2		2	★
		建築積算		2	2	★
(小計)			6	6	12	
キャリアデザインⅡ			2	2	2	
企業研修					(2)	
特別講座					(4)	
2年次合計			32	34	50	
1、2年次総合計			60	70	102	

卒業条件

2年次必修科目12単位、  
1、2年次選択必修科目20単位以上、  
1年次基幹科目の☆印4単位必須、  
2年次基幹科目★印欄の科目をいずれか必須、  
1、2年次基幹科目※印の科目を8単位以上必須、  
1、2年次基幹科目の合計22単位以上  
その他の科目含め  
**総合計78単位以上**

## ■ 設備環境デザイン学科

### 1 年次

	科目名	週時間数		単位数	
		前期	後期		
専門科目	必修科目	設計製図Ⅰ	4	4	4
		建築製図Ⅰ	4	4	4
		建築設備設計製図Ⅰ a	4		2
		建築設備設計製図Ⅰ b	4	4	4
		設備環境実験実習	4	4	4
		設備環境デザイン概論	2	2	4
	(小計)	22	18	22	
	選択科目	給排水衛生設備特論Ⅰ		2	2
		空気調和設備特論Ⅰ		2	2
		電気設備特論Ⅰ		2	2
		資格対策講座(※)		2	2
		(小計)		8	8
基幹科目		建築計画Ⅰ	2		2
	建築計画Ⅱ		2	2	
	建築史Ⅰ	2		2	★
	建築史Ⅱ		2	2	
	建築法規Ⅰ	2		2	★
	建築法規Ⅱ		2	2	
	建築一般構造Ⅰ	2		2	★
	建築一般構造Ⅱ		2	2	
	構造力学Ⅰ	2		2	★
	構造力学Ⅱ		2	2	
	情報処理演習	2		2	☆
建築施工法Ⅰ		2	2		
(小計)	12	12	24		
キャリアデザインⅠ	2	2	2		
企業研修			(2)		
特別講座			(4)		
1年次合計	36	40	56		

### 2 年次

	科目名	週時間数		単位数	
		前期	後期		
専門科目	必修科目	設計製図Ⅱ	4	4	4
		建築製図Ⅱ	4	4	4
		建築設備設計製図Ⅱ a	4	4	4
		建築設備設計製図Ⅱ b	4	4	4
		電気設備特論Ⅲ		4	4
		卒業制作		4	2
	(小計)	16	24	22	
	選択必修科目	給排水衛生設備特論Ⅲ		4	4
		空気調和設備特論Ⅲ		4	4
		(小計)		8	8
	選択科目	給排水衛生設備特論Ⅱ	2		2
		空気調和設備特論Ⅱ	2		2
電気設備特論Ⅱ		2		2	
F M基礎		2		2	
設備環境デザイン特論		2		2	
リフォーム・メンテナンス工学		2		2	
資格対策講座(※)	2		2		
(小計)	14		14		
基幹科目	建築材料学Ⅰ	2		2	★
	建築材料学Ⅱ		2	2	
	建築施工法Ⅱ	2		2	★
	建築積算		2	2	
	(小計)	4	4	8	
キャリアデザインⅡ	2	2	2		
企業研修			(2)		
特別講座			(4)		
2年次合計	36	38	54		
1, 2年次総合計	72	78	110		

#### 進級条件

1年次必修科目 2 単位、  
1年次基幹科目★印欄の科目をいずれか必須とし、  
その他の科目含め

総合計 4 4 単位以上

#### 卒業条件

2年次必修科目 2 単位、  
選択必修科目 4 単位以上、  
1年次基幹科目の☆印 4 単位必須、  
2年次基幹科目★印欄の科目をいずれか必須、  
1、2年次基幹科目の合計 2 0 単位以上  
その他の科目含め

総合計 8 2 単位以上

(※) 資格対策講座は履修申請により受講(最小開講人数 5 名)

\*一部変更することがある。

## ■ インテリアデザイン学科

### 1年次

	科目名	週時間数		単位数		
		前期	後期			
専門科目	必修科目	設計製図Ⅰ	4	4	4	
		建築製図Ⅰ	4	4	4	
		デザイン基礎演習	4	4	4	
		インテリア概論	4	4	8	
		(小計)	16	16	20	
	選択科目	テクニカルⅠ	2		2	
		テクニカルⅡ	2		2	
		CAD基礎演習		4	2	
		(小計)	4	4	6	
		基幹科目	建築計画Ⅰ	2		2
	建築計画Ⅱ			2	2	
	建築史Ⅰ		2		2	※
	建築史Ⅱ			2	2	
	建築法規Ⅰ		2		2	★
建築法規Ⅱ			2	2		
建築一般構造Ⅰ	2			2	★	
建築一般構造Ⅱ			2	2		
構造力学Ⅰ	2			2	★	
構造力学Ⅱ			2	2		
情報処理演習	2			2	☆	
建築施工法Ⅰ			2	2		
(小計)	12	12	24			
キャリアデザインⅠ	2	2	2			
企業研修			(2)			
特別講座			(4)			
1年次合計	34	34	52			

### 2年次

	科目名	週時間数		単位数			
		前期	後期				
専門科目	必修科目	設計製図Ⅱ	4	4	4		
		建築製図Ⅱ	4	4	4		
		スペースデザインa	4	4	4		
		スペースデザインb	4	4	4		
		卒業制作		4	2		
		(小計)	16	20	18		
		選択科目	インテリア特論	2		2	
	CAD応用演習Ⅰ		4		2		
	CAD応用演習Ⅱ			4	2		
	(小計)		6	4	6		
	基幹科目		建築環境工学	2		2	※
			建築設備		2	2	
			建築材料学Ⅰ	2		2	★
		建築材料学Ⅱ		2	2		
建築施工法Ⅱ		2		2	★		
建築積算			2	2			
(小計)		6	6	12			
キャリアデザインⅡ	2	2	2				
企業研修			(2)				
特別講座			(4)				
2年次合計	30	32	38				
1、2年次総合計	64	66	90				

#### 進級条件

1年次必修科目20単位、  
1年次基幹科目★※印欄の科目をいずれか必須とし、  
その他の科目含め

**総合計38単位以上**

\*一部変更することがある。

#### 卒業条件

2年次必須科目18単位、  
1年次基幹科目の☆印4単位必須、  
2年次基幹科目★印欄の科目をいずれか必須、  
1、2年次基幹科目※印の科目を8単位以上必須、  
1、2年次基幹科目の合計22単位以上  
その他の科目含め

**総合計72単位以上**

■ 大工技能学科

1年次

	科目名	週時間数		単位数		
		前期	後期			
専門科目	必修科目	設計製図Ⅰ	4	4	4	
		建築製図Ⅰ	4	4	4	
		建築技能実習Ⅰ	4	4	2	
		建築技能実習Ⅱ	4	4	2	
		建築技能実習Ⅲ	4	4	2	
		木構造設計製図	2	2	2	
		(小計)	22	22	16	
基幹科目	建築計画Ⅰ	2		2	※	
	建築計画Ⅱ		2	2		
	建築史Ⅰ	2		2	※	
	建築史Ⅱ		2	2		
	建築法規Ⅰ	2		2	★	
	建築法規Ⅱ		2	2		
	建築一般構造Ⅰ	2		2	★	
	建築一般構造Ⅱ		2	2		
	構造力学Ⅰ	2		2	★	
	構造力学Ⅱ		2	2		
	情報処理演習	2		2	☆	
	建築施工法Ⅰ		2	2		
	(小計)	12	12	24		
	キャリアデザインⅠ	2	2	2		
企業研修			(2)			
特別講座			(4)			
1年次合計	36	36	42			

2年次

	科目名	週時間数		単位数		
		前期	後期			
専門科目	必修科目	設計製図Ⅱ	4	4	4	
		建築製図Ⅱ	4	4	4	
		建築技能実習Ⅳ	4	4	2	
		建築技能実習Ⅴ	4	4	2	
		建築技能実習Ⅵ	4	4	2	
		卒業制作		4	2	
		(小計)	20	24	16	
選択科目	CAD設計製図Ⅰ	4		2	★	
	CAD設計製図Ⅱ		4	2	★	
	(小計)	4	4	4		
基幹科目	建築環境工学	2		2	※	
	建築設備		2	2		
	建築材料学Ⅰ	2		2	★	
	建築材料学Ⅱ		2	2		
	建築施工法Ⅱ	2		2	★	
	建築積算		2	2		
	(小計)	6	6	12		
	キャリアデザインⅡ	2	2	2		
	企業研修			(2)		
	特別講座			(4)		
2年次合計	32	36	34			
1、2年次総合計	68	72	76			

進級条件

1年次必修科目16単位  
 1年次基幹科目★※印欄の科目をいずれか必須とし、  
 その他の科目含め

総合計32単位以上

\*一部変更することがある。

卒業条件

2年次必須科目16単位、  
 1年次基幹科目の☆印4単位必須、  
 2年次基幹科目および選択科目の★印欄科目をいずれか必須、  
 1、2年次基幹科目※印の科目を8単位以上必須、  
 1、2年次基幹科目の合計22単位以上  
 その他の科目含め

総合計64単位以上

■ 建築設計学科

1年次

	科目名	週時間数		単位数		
		前期	後期			
専門科目	必修科目	設計製図Ⅰ	6	6	4	
		建築製図Ⅰ	4	4	4	
		CAD設計製図Ⅰ		4	2	
		設計演習Ⅰ	4	4	4	
		(小計)	14	18	14	
	選択科目	構造力学演習	2		2	
		図学	2		2	
		意匠設計特論Ⅰ		2	2	
		構造設計特論Ⅰ		2	2	
		建築概論(木造設計特論)		2	2	
		(小計)	4	6	10	
	基幹科目	建築計画Ⅰ	2		2	※
		建築計画Ⅱ		2	2	※
		建築史Ⅰ	2		2	※
		建築史Ⅱ		2	2	※
		建築法規Ⅰ	2		2	★
		建築法規Ⅱ		2	2	★
		建築一般構造Ⅰ	2		2	★
		建築一般構造Ⅱ		2	2	★
構造力学Ⅰ		2		2	★	
構造力学Ⅱ			2	2	★	
情報処理演習		2		2	☆	
建築施工法Ⅰ			2	2	☆	
(小計)		12	12	24		
キャリアデザインⅠ		2	2	2		
企業研修				(2)		
特別講座				(4)		
1年次合計		32	38	50		

2年次

	分野	科目名	週時間数		単位数	
			前期	後期		
専門科目	必修科目	設計製図Ⅱ	6	6	4	
		建築製図Ⅱ	4	4	4	
		CAD設計製図Ⅱ	4		2	
		設計演習Ⅱ	4		2	
		卒業制作		4	2	
		(小計)	18	14	14	
	選択必修科目	意匠設計	意匠設計特論Ⅱ	4		4
			意匠設計特論Ⅲa		4	4
			意匠設計特論Ⅲb		4	4
		構造設計	構造設計特論Ⅱ	4		4
			構造設計特論Ⅲa		4	4
			構造設計特論Ⅲb		4	4
	(小計)	4	8	12		
	選択科目	CAD設計製図Ⅲ		4	2	
		建築計画Ⅲ		2	2	
		建築構造学	2		2	
		建築士試験演習Ⅰ	2		2	
		建築士試験演習Ⅱ		2	2	
	(小計)	4	8	10		
	基幹科目	建築環境工学	2		2	※
		建築設備		2	2	※
		建築材料学Ⅰ	2		2	★
		建築材料学Ⅱ		2	2	★
		建築施工法Ⅱ	2		2	★
建築積算			2	2	★	
(小計)		6	6	12		
キャリアデザインⅡ		2	2	2		
企業研修				(2)		
特別講座				(4)		
2年次合計		34	38	50		
1、2年次総合計		66	76	100		

注) 選択必修科目は履修申請により受講(最小開講人数5名)

進級条件

1年次必修科目14単位、  
1年次基幹科目★※印欄の科目をいずれか必須とし、  
その他の科目含め

総合計40単位以上

\*一部変更することがある。

卒業条件

2年次必須科目14単位、  
選択必修科目12単位以上、  
1年次基幹科目の☆印4単位必須、  
2年次基幹科目★印欄の科目をいずれか必須、  
1、2年次基幹科目※印の科目を8単位以上必須、  
1、2年次基幹科目の合計22単位以上  
その他の科目含め

総合計80単位以上



## ■ ロボット・機械学科

### 1年次

	専攻	科目	週時間数		単位数
			前期	後期	
必修科目		基礎製図	4	4	4
		CAD実習Ⅰ	4	4	4
		製作実習基礎	8		4
	(小計)	16	8	12	
選択必修科目	ロボット機械	製作実習Ⅰ		8	4
	電気機械	製作実習Ⅰ		8	4
	(小計)		8	4	
選択科目		コンピュータ演習	2	2	4
		工業数理	2		2
		材料力学Ⅰ	2		2
		図学	2		2
		電気概論	4		4
		工業材料	2		2
		材料力学Ⅱ		2	2
		加工技術		2	2
		要素設計		2	2
		電子回路		2	2
		ソフトウェア演習		2	2
		テクニカルイラスト		2	2
		流体力学		2	2
		(小計)	14	16	30
		キャリアデザイン	2	2	2
企業研修			(2)		
特別講座Ⅰ			(4)		
1年次合計	32	34	48		

### 2年次

	コース	科目	週時間数		単位数
			前期	後期	
必修科目		CAD実習Ⅱ	4	8	6
		総合制作実習		4	2
		卒業制作		4	2
	(小計)	4	16	10	
選択必修科目	ロボット	製作実習Ⅱ	8	8	8
	機械技能	製作実習Ⅱ	8	8	8
	電気	製作実習Ⅱ	8	8	8
	(小計)	8	8	8	
選択科目		機械設計Ⅰ	4		4
		センサ技術	2		2
		プロダクトデザイン	4		4
		3D-CAD	4		4
		マイコン制御	2		2
		ロボット概論	2		2
		機械設計Ⅱ		4	4
		熱力学		2	2
		産業機械		2	2
		機械力学		2	2
		工業英語		2	2
		(小計)	18	12	30
		キャリアデザイン	2	2	2
企業研修			(2)		
特別講座Ⅱ			(4)		
2年次合計	32	38	50		
1, 2年次総合計	64	72	98		

#### 進級条件

1年次必修科目・選択必修科目 16単位  
1年次選択科目の中から20単位以上

**総合計36単位以上**

#### 卒業条件

2年次必修科目・選択必修科目 18単位  
1・2年次選択科目の中から合計40単位以上

**総合計74単位以上**

\*一部変更することがある

## ◆ 建築士専科

### 1 年次

	科目	週時間数		単位数
		前期	後期	
必修科目	建築計画Ⅰ	2		2
	建築計画Ⅱ	4		4
	建築一般構造Ⅰ	2		2
	建築一般構造Ⅱ	4		4
	建築法規Ⅰ	2		2
	建築法規Ⅱ	4		4
	建築施工Ⅰ	2		2
	建築施工Ⅱ	4		4
	構造力学・建築材料	4		4
	課題演習	6		6
	キャリア・デザイン	2		2
	建築設計製図		12	6
	ビジネス講座		2	2
	小計	36	14	44
選択科目	特別講義Ⅰ（学外研修）		2	2
	特別講義Ⅱ（建築デザイン）		2	2
	建築積算講座		2	2
	2級建築施工管理技士（学科）		2	2
	危険物取扱講座		2	2
	小計	0	10	10
総合計		36	24	54

### 卒業条件

必須科目44単位、選択科目6単位以上

合計50単位以上を修得していること

※一部変更することがある

## ■ 建築学科Ⅱ部

### 1 年次

	科目名	週時間数		単位数	
		前期	後期		
専門科目	必修科目	設計製図Ⅰ	4	4	4
		構造力学演習Ⅰ	2		2
		構造力学演習Ⅱ		2	2
		計画基礎演習Ⅰ	2		2
		計画基礎演習Ⅱ		2	2
		(小計)	8	8	12
	選択科目				
		(小計)	0	0	0
	基幹科目	1 群	建築計画Ⅰ	2	
建築計画Ⅱ				2	2
建築史Ⅰ			2		2
建築史Ⅱ				2	2
建築法規Ⅰ			2		2
建築法規Ⅱ				2	2
建築一般構造Ⅰ			2		2
建築一般構造Ⅱ				2	2
構造力学Ⅰ			2		2
構造力学Ⅱ				2	2
情報処理演習			2		2
建築施工法Ⅰ				2	2
2 群		建築基礎演習Ⅰ a	1	1	1
		建築基礎演習Ⅰ b	1	1	1
		建築基礎演習Ⅰ c	1	1	1
		建築基礎演習Ⅰ d	1	1	1
		建築基礎演習Ⅰ e	1	1	1
(小計)		17	17	29	
企業研修				(2)	
特別講座				(4)	
1年次合計		25	25	41	

### 進級条件

1年次必修科目 12単位  
その他の科目含め

**総合計 24 単位以上**

\*一部変更することがある

### 2 年次

	科目名	週時間数		単位数	
		前期	後期		
専門科目	必修科目	設計製図Ⅱ	4	4	4
		CAD設計製図Ⅰ	4		2
		CAD設計製図Ⅱ		4	2
		卒業制作		4	2
		(小計)	8	12	10
	選択必修科目	計画演習Ⅰ	2		2
		計画演習Ⅱ		2	2
		構造演習Ⅰ	2		2
		構造演習Ⅱ		2	2
	(小計)	4	4	8	
	選択科目	建築設計演習Ⅰ※1	2		2
		建築設計演習Ⅱ※2		2	2
		(小計)	2	2	4
基幹科目	1 群	建築環境工学	2		2
		建築設備		2	2
		建築材料学Ⅰ	2		2
		建築材料学Ⅱ		2	2
		建築施工法Ⅱ	2		2
		建築積算		2	2
	2 群	建築基礎演習Ⅱ a	1	1	1
		建築基礎演習Ⅱ b	1	1	1
		建築基礎演習Ⅱ c	1	1	1
建築基礎演習Ⅱ d	1	1	1		
建築基礎演習Ⅱ e	1	1	1		
(小計)	11	11	17		
企業研修				(2)	
特別講座				(4)	
2年次合計		25	29	39	
1、2年次総合計		50	54	80	

### 卒業条件

2年次必修科目 10単位  
2年次選択必修科目の中から4単位  
1、2年次基幹科目 46単位  
その他の科目含め

**総合計 72 単位以上**

※1. ※2. はそれぞれ計画演習Ⅰ・Ⅱと一体授業  
「卒業制作」の認定は選択必修科目の中から6単位取得によることできる

## ■ フレックス建築学科（Ⅱ部）

	科目名	週時間数		単位数	
		前期	後期		
専門科目	必修科目	設計製図Ⅰ	4	4	4
		設計製図Ⅱ	4	4	4
		構造力学演習Ⅰ	2		2
		構造力学演習Ⅱ		2	2
		計画基礎演習Ⅰ	2		2
		計画基礎演習Ⅱ		2	2
		CAD設計製図Ⅰ	4		2
		CAD設計製図Ⅱ		4	2
		卒業制作		4	2
	(小計)	16	20	22	
	選択自由科目	計画演習Ⅰ	2		2
		計画演習Ⅱ		2	2
		構造演習Ⅰ	2		2
		構造演習Ⅱ		2	2
		建築設計演習Ⅰ	2		2
		建築設計演習Ⅱ		2	2
		(小計)	6	6	12
基幹科目	必修科目	建築計画Ⅰ	2		2
		建築計画Ⅱ		2	2
		建築史Ⅰ	2		2
		建築史Ⅱ		2	2
		建築法規Ⅰ	2		2
		建築法規Ⅱ		2	2
		建築一般構造Ⅰ	2		2
		建築一般構造Ⅱ		2	2
		構造力学Ⅰ	2		2
		構造力学Ⅱ		2	2
		建築施工法Ⅰ		2	2
		建築施工法Ⅱ	2		2
		建築環境工学	2		2
		建築設備		2	2
	建築材料学Ⅰ	2		2	
	建築材料学Ⅱ		2	2	
	(小計)	16	16	32	
	選択自由科目	情報処理演習	2		2
		建築積算		2	2
		建築基礎演習Ⅰa	1	1	1
		建築基礎演習Ⅰb	1	1	1
		建築基礎演習Ⅰc	1	1	1
		建築基礎演習Ⅰd	1	1	1
		建築基礎演習Ⅰe	1	1	1
		建築基礎演習Ⅱa	1	1	1
		建築基礎演習Ⅱb	1	1	1
		建築基礎演習Ⅱc	1	1	1
		建築基礎演習Ⅱd	1	1	1
		建築基礎演習Ⅱe	1	1	1
		(小計)	12	12	14
<b>【合計】</b>		50	54	80	

※各授業科目の履修等については、校長が別に定める。

※1年間で履修登録できる上限は41単位とする。

※「卒業制作」の認定は選択自由科目の中から2単位取得によることができる。

卒業条件	
専門科目（必須科目）	22単位
基幹科目（必須科目）	32単位
合計	54単位以上

●受験資格一覧

	建築学科 設備環境デザイン学科 建築設計学科 建築学科Ⅱ部 フレックス建築学科		大工技能学科		インテリアデザイン学科	
	実務経験年数	指定科目条件	実務経験年数	指定科目条件	実務経験年数	指定科目条件
1級建築士	4年以上	※	4年以上	※	4年以上	※
2級建築士	0年	※	0年	※	0年	※
木造建築士	0年	※	0年	※	0年	※
1級建築施工管理	5年以上		5年以上		5年以上	※
2級建築施工管理(学科)	0年又は2年以上 (受検種別による)		0年又は2年以上 (受検種別による)		0年又は2年以上 (受検種別による)	※
2級建築施工管理(実地)	2年以上		2年以上		2年以上	※
1級土木施工管理	5年以上		5年以上		5年以上	※
2級土木施工管理(学科)	0年又は2年以上 (受検種別による)		0年又は2年以上 (受検種別による)		0年又は2年以上 (受検種別による)	※
2級土木施工管理(実地)	2年以上		2年以上		2年以上	※
1級管工事施工管理	5年以上		5年以上		5年以上	※
2級管工事施工管理(学科)	0年		0年		0年	※
2級管工事施工管理(実地)	2年以上		2年以上		2年以上	※
1級造園施工管理	5年以上		5年以上		5年以上	※
2級造園施工管理(学科)	0年		0年		0年	※
2級造園施工管理(実地)	2年以上		2年以上		2年以上	※
1級電気工事施工管理	5年以上		5年以上		5年以上	※
2級電気工事施工管理(学科)	0年		0年		0年	※
2級電気工事施工管理(実地)	2年以上		2年以上		2年以上	※
1級建設機械施工	5年以上		5年以上	※	5年以上	※
2級建設機械施工	1.5年以上又は2年以上 (受検種別の経験による)		1.5年以上又は2年以上 (受検種別の経験による)	※	1.5年以上又は2年以上 (受検種別の経験による)	※
<b>【その他の資格】</b>						
以下の資格試験については在学中に受検可能であるが、受検を希望する級や種別によっては実務経験や実技講習修了等の要件がある。						
・技能士 ・測量士(補) ・インテリアコーディネーター ・電気工事士 ・電気主任技術者 ・消防設備士 ・ボイラー技士 ・危険物取扱者						
・宅地建物取引主任者 ・ビジネス能力検定 ・福祉住環境コーディネーター ・その他						
<b>【注意事項】</b>						
①※印については、受検資格認定に於いて別途指定された科目を履修(単位修得)する必要がある。						
②過年度の入学者に関しましては、必ずしも上記の受検資格が適合するとは限りませんので、必ず事務室までお問い合わせください。						

<b>ロボット・機械学科</b>	
機 械 設 計 技 術 者 C A D 利 用 技 術 者 電 気 工 事 士 電 気 主 任 技 術 者 ボ イ ラ ー 技 士 消 防 設 備 士 危 険 物 取 扱 者 家 電 製 品 エ ン ジ ン ア ビ ジ ネ ス 能 力 検 定 そ の 他、多 数	在 学 中 に 受 検 可 能 で る が、受 検 を 希 望 す る 級 や 種 別 に よ っ て は、実 務 経 験 も し く は 下 級 の 合 格、又 は 実 技 講 習 修 了 等 の 要 件 が あ る。

**【注意事項】**

過年度の入学者に関しましては、必ずしも上記の受験資格が適合するとは限りませんので、試験を実施する機関等にご確認ください。

●各種資格等の試験合格者数（平成30年度実績）

- ・ 2 級 建 築 士 (学 科)                    受 験 者 数 3 8 名 ・ 合 格 者 数 2 2 名 ・ 合 格 率 5 7 . 9 %
- ・ 2 級 建 築 士 (製 図)                    受 験 者 数 2 2 名 ・ 合 格 者 数 1 7 名 ・ 合 格 率 7 7 . 3 %
- ・ 建 築 大 工 技 能 士 (2 級)                受 験 者 数 4 0 名 ・ 合 格 者 数 8 名 ・ 合 格 率 2 0 . 0 %
- ・ 建 築 大 工 技 能 士 (3 級)                受 験 者 数 3 3 名 ・ 合 格 者 数 2 4 名 ・ 合 格 率 7 2 . 7 %
- ・ 建 築 配 管 技 能 士 (2 級)                受 験 者 数 2 名 ・ 合 格 者 数 1 名 ・ 合 格 率 5 0 . 0 %
- ・ 建 築 配 管 技 能 士 (3 級)                受 験 者 数 1 2 名 ・ 合 格 者 数 1 0 名 ・ 合 格 率 8 3 . 3 %
- ・ 建 築 積 算 士 補                        受 験 者 数 5 0 名 ・ 合 格 者 数 3 9 名 ・ 合 格 率 7 8 . 0 %
- ・ ビ ジ ネ ス 能 力 検 定 (3 級)            受 験 者 数 1 4 8 名 ・ 合 格 者 数 1 1 9 名 ・ 合 格 率 8 0 . 4 %

※但し、2級建築士(学科・製図)の試験結果は建築士専科生の実績である。

●卒業生数、卒業後の進路状況（平成30年度実績）

- 【建 築 学 科                    (卒業生数 81 名)】 進学者数 31 名 ・ 就職希望者数 50 名 ・ 就職者数 44 名
- 【設 備 環 境 デ ザ イ ン 学 科 (卒業生数 9 名)】 進学者数 2 名 ・ 就職希望者数 7 名 ・ 就職者数 7 名
- 【イ ン テ リ ア デ ザ イ ン 学 科 (卒業生数 17 名)】 進学者数 9 名 ・ 就職希望者数 8 名 ・ 就職者数 6 名
- 【大 工 技 能 学 科                (卒業生数 41 名)】 進学者数 7 名 ・ 就職希望者数 34 名 ・ 就職者数 34 名
- 【建 築 設 計 学 科                (卒業生数 25 名)】 進学者数 3 名 ・ 就職希望者数 22 名 ・ 就職者数 20 名
- 【ロ ボ ッ ト ・ 機 械 学 科        (卒業生数 44 名)】 進学者数 2 名 ・ 就職希望者数 42 名 ・ 就職者数 42 名
- 【建 築 士 専 科                    (卒業生数 38 名)】 進学者数 0 名 ・ 就職希望者数 38 名 ・ 就職者数 36 名
- 【建 築 学 科 Ⅱ 部                (卒業生数 41 名)】 進学者数 0 名 ・ 就職希望者数 25 名 ・ 就職者数 25 名
- 【フ レ ッ ス 建 築 学 科        (卒業生数 1 名)】 進学者数 0 名 ・ 就職希望者数 1 名 ・ 就職者数 1 名

※尚、各学科の進学者の多くは内部（建築士専科）への進学となる。

《主な就職先会社名》 ※平成 30 年度実績

南海辰村建設(株)、奥村組土木興業(株)、(株)大阪ガスファシリティーズ、大林ファシリティーズ(株)、大和ハウス工業(株)、(株)西原衛生工業所、パナソニック ES テクノストラクチャー(株)、(一財)日本建築総合試験所、鉄建建設(株)、鹿島建設(株)、(株)あい設計、(株)現代総合設計、(株)阿波設計事務所、(株)住之江工芸、日本メックス(株)、須賀工業(株)、中央電設(株)、(株)山本博工務店、(株)コアー建築工房、旭化成住宅建設(株)、(株)TAK システムズ、日本建設(株)、(株)TAK-QS、カワサキロボットサービス(株)、住友精密工業(株)、クボタ機械設計(株)、攝津製油(株)、アルインコ(株)、JFE エンジニアリング(株)、(株)フジキン、信越化学工業(株)、その他多数

### (3) 教職員

●教職員数、及び教員&講師（担当学科）

【専任】

- ・校長 1 名、及び教員 15 名（以下、重複担当しています）  
（建築学科 11 名、設備環境デザイン学科 6 名、インテリアデザイン学科 5 名、大工技能学科 6 名、建築設計学科 12 名、建築学科Ⅱ部 9 名、フックス建築学科 9 名、ロボット・機械学科 3 名）
- ・事務 10 名

【非常勤】

- ・講師 76 名（以下、重複担当しています）  
（建築学科 36 名、設備環境デザイン学科 10 名、インテリアデザイン学科 15 名、大工技能学科 19 名、建築設計学科 16 名、建築学科Ⅱ部 13 名、フックス建築学科 13 名、ロボット・機械学科 11 名）
- ※建築士専科（専任 3 名・非常勤 2 名）

### (4) キャリア教育等

●キャリア教育への取組状況

「キャリアデザイン」の時間を活用し、自らの職業観や勤労観といった概念の形成、コミュニケーション能力、ビジネス常識等、職業人として適応するための取り組みを行っている。また、1 年次後期には就職意識を高め、基本的ビジネスマナー習得を目的として「ビジネス能力検定」に関する講義の実施および検定合格を目標としている。そのほか各学科の主要専門科目においても、キャリア教育（仕事力の獲得）を盛り込んだカリキュラムとして実施している。更に、夏季および春季には企業研修への積極的参加を呼び掛けており、企業での実務、実地を経験することにより学生自身のキャリアデザインにも役立てるよう取り組みを推進している。

【企業研修コンセプト】

これは、本校への求人票提出企業を中心に、設計、施工、インテリア、大工技能、製造関連等々の企業群を抽出し、これらの企業へ学生が赴き実業務の一端を経験するという職業教育の一環として行っている。本校における企業研修のコンセプトは「実体験」であり、机上の勉強や研修は求めている。社員の方が日々行われている業務を体験し、その厳しさや難しさ、そして

面白さややりがいを感じることを目的としている。

#### 【研修概要】

『OCT企業研修』

- ・期間／平成30年8月21日～令和元年9月19日の間（研修期間：概ね3日間～2週間程度）
- ・研修実施社数／92社（全体研修賛同企業社数／223社）
- ・研修参加学生数／173名（延べ参加学生数187名）
- ・研修参加形態／任意
- ・単位認定／あり

#### ●進路支援への取組

本校では、クラス担任に加え進路支援室職員が、直接学生に就職や大学編入等にあたっての基礎知識や活動方法、企業、編入先の選び方、履歴書をはじめとした各書類の作成方法、面接の受け方までを指導する体制をとっている。1年次の後半に学科別進路ガイダンスを開催、更に、担任・進路支援室職員・学生の3者面談の実施により学生ひとりひとりの希望進路を確認した上で学生個人の就職カルテを作成している。その内容により活動時期を大きく3つに分け、学生個々に応じたスケジュールを組み進路指導を行っている。本校の進路支援は、個別対応を基本としており、学生が思い描いている将来の実現へ向けて取り組む体制を整えている。

#### 【就職支援コンセプト】

学生が就職活動を行なうにあたり、これを促進する意味とより深く企業・仕事について深い知識を得るために学内及び求人企業先での会社説明会、職場体験会を学校主導で開催している。前年度においては、学内説明会【下記※1】、企業側での本校単独説明会・見学会【下記※2】を開催した。そして、この中から多くの学生が内定を獲得しており、企業や仕事を知る機会の一つとして、今後もより積極的に開催していく。

#### 【学内説明会実施企業（※1）～平成30年度実績】

大和ハウス工業(株)、(株)船場、パナソニックエイジフリー(株)、鉄建建設(株)、カワサキロボットサービス(株)、(株)TAK システムズ、日本メックス(株)、パナソニックアーキスケルトンデザイン(株)、旭化成住宅建設(株)、奥村組土木興業(株)、須賀工業(株)、清水建設グループ、大阪府住宅供給公社、(株)西原衛生工業所、(株)悠建設、(株)松下産業、(株)アイ建設、ニプロファーマ(株)、(株)ジー・ワイ設計、(株)越智工務店、信越化学工業(株)、(株)日新工営、吉原建設産業(株)、攝津製油(株)、(株)ハイビッド建築図面工房、(株)昭和工務店、(株)アルモ設計、(株)金山工務店、鹿島建設(株) 他

#### 【本校単独説明会・見学会実施企業（※2）～平成30年度実績】

日本製鐵(株)、(株)シミズオクト、(株)フジキン、日本建設(株)、大林ファシリティーズ(株)、マツモト機械(株)、富士金属(株)、JFEエンジニアリング(株)、(一財)日本建築総合試験所、JFEスチール(株)、(株)TAK-QS、ケイ・アイ・エスグループ、(株)現代総合設計、(株)大阪ガスファシリティーズ、ナカバヤシ(株)、(株)関西鉄工所、(株)じょぶ、(株)高原建築研究所 他



## (5) 様々な教育活動

### ●学校行事への取組状況

本校では校外実習、現場見学会、作品展示会、講演会、リクリエーションなどの学校行事に取り組み、とりわけ各学科主催によって旺盛に行われている。その取組は、本校のホームページ上の「OCT ブログ」等で常に外部に発信している。

### ●部活動、放課後活動、生徒会活動等の状況

本校学則第1条の教育目的達成にかかわる課外活動の重要性に鑑み、「学生の課外活動に関する規程」により学生個人の活動、学生団体の設立などを規定している。

また、大阪工業技術専門学校学生自治会を組織し、毎年有志によるスタッフとそこから選出された自治会長と共に、諸活動を行っている。学生生活の改善・活性化に関わる自治活動の他、自治会主催による校外見学会やスポーツ大会、卒業生のための感謝パーティなども企画・実施している。また、自治会からの一部支援による以下の部活動・同好会活動も行っている。

体育会系：野球部、テニス・バスケットボール・サッカー等のサークル

文化会系：エコラン部、ロボット研究部、建築技術研究会、写真・まち探研究等のサークル

### ●家庭・地域・企業等との連携による取組、他の学校との連携による取組等の状況

本校では、企業の現場見学会・企業講師による特別講義など、企業等との連携による取組を積極的に行っている。企業人との関わりによって、仕事のリアルを学生たちに体感してもらうと共に、広く社会貢献意識の涵養も目指している。

また、ASR (Academic Social Responsibility) 社会貢献活動として、児童を対象にモノづくりの楽しさを体験してもらう「モノづくりワクワク隊」や、青年を対象に「建築巨匠作品模型・図面」の出前展示会、「風土と建築」と題する出前授業などを実施している。建築やモノづくりの楽しさを通じて職業意識の向上を図れるよう支援するこれらの活動は、地域の団体様、小学校、中学校、高等学校などとの連携によって進めている。

## (6) 学生の生活支援

### ●学生支援の方針

本校は自立した職業人を目指すための高等教育機関であり、各業界の専門知識や技術はもちろん、設計力を身につけることによって得られる仕事力をもつ人材育成を行っている。日常的な指導については、各クラスに担任を1名配置しており、学生の自立を支援する存在として学生の個性に応じたきめ細かな指導を心がけている。また全ての授業において専門性の獲得のみならず、職業意識・問題解決能力・コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力、時間管理や納期意識など職業人として基礎となる主体性や自立性の獲得を目指した指導を行っている。

### ●学生支援の取組状況

昼間部学科では週に1限、クラス担任が担当する「キャリアデザイン」の時間を設定しており、入学時に全員に対する個別面談、各業界案内や職業ガイダンス、各種資格の体系理解や取得のための支援、就職活動に必要な心構えや面接等の具体的対策を行っている。また、学生個々に

対して、日々の出席や成績状況を基に進級や卒業に向けての指導をきめ細かく行い、欠席や成績不良等による問題が予見される場合には本人に対する直接指導を行うと共に、保護者への連絡及び状況報告を以って中途退学の防止に取り組んでいる。更には、年に1度若しくは2度の保護者会を開催し、各クラス担任による個別面談で様々な相談にも応じている。尚、心のケアに対しては福田学園学生相談室を設置し、専門カウンセラーにて対応している。

## (7) 学生納付金・就学支援

### ●就学支援制度、及び案内

『OCTドリームサポートプラン』: 高校在学時に日本学生支援機構の奨学金（予約採用）決定者を対象に、入学手続金の一部、及び入学後の学費を分割にて納付できる制度。

『リカレント生対象学費支援（減免）』: 大学・短大・専門学校（専門課程）を卒業の方、又は社会人（20歳以上）として経歴を持つ方を対象に学費の一部を減免する制度。

『在学生対象学費支援（減免）』: 入学後の成績優秀者に対し、進級時点に於いて年間授業料の一部を減免する制度。

『経済的理由者学費支援（減免）』: 入学後に家計急変等の理由により修学が困難になった者に対して授業料の半額を減免する制度。

『日本学生支援機構奨学金』: 入学後に本校での推薦のもと、奨学金の貸与ができる制度。

『学費の分納・延納』: 入学後の学費納付に困難がある場合、相談により分納もしくは延納の対応措置。

その他～『国の教育ローン』や『福田学園提携オリコ学費サポートプラン』の案内。

※学生納付金等は、(2-②) 項でリンク先を記載。

## (8) 学園の財務（平成30年度）

### ●貸借対照表（下記、リンク先アドレス）

[https://www.ohsu.ac.jp/about/disclosure/release/data/h30\\_business\\_report\\_07.pdf](https://www.ohsu.ac.jp/about/disclosure/release/data/h30_business_report_07.pdf)

### ●資金収支計算書（下記、リンク先アドレス）

[https://www.ohsu.ac.jp/about/disclosure/release/data/h30\\_business\\_report\\_04.pdf](https://www.ohsu.ac.jp/about/disclosure/release/data/h30_business_report_04.pdf)

## (9) 学校評価

### ●自己点検評価・学校関係者評価の結果（下記、リンク先アドレス）

[https://www.oct.ac.jp/assets/pdf/other/H30\\_zikotenkenhyouka.pdf](https://www.oct.ac.jp/assets/pdf/other/H30_zikotenkenhyouka.pdf)

[https://www.oct.ac.jp/assets/pdf/other/H30\\_gakkoukankeishahyouka.pdf](https://www.oct.ac.jp/assets/pdf/other/H30_gakkoukankeishahyouka.pdf)